矢作川流域圏懇談会通信

H26 川部会編 vol. 6

発　行　日：平成 26 年 11 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 22 回川部会WGを開催しました！

第 22 回川部会WGでは、本川モデルについて、久澄橋下流の瀬などについて意見交換を行い、市民、活動団体、学識者、行政など背景の異なる参加者により、白熱した議論がなされました。

日　　時：平成 26 年 10 月 31 日（金）18:00～20:00
会議場所：豊田市職員会館２Ｆ　第１会議室
参 加 者：２３名（事務局含む）

◆主な意見交換内容

（• 意見　➢回答）

●河道横断測量、縦断測量結果より、鵜ノ首付近の河道掘削の影響は、39.0ｋ～39.4ｋ付近の瀬に影響はしていないと考えられる。

●39.4ｋ（瀬付近）の河床が低下し、瀬が失われつつある。漁協では、川の営力で瀬を作れるか検討している。川自身が川の営力で瀬・淵を作ること、復元するためにどうすれば良いかということを考えて欲しい。現状を修復する努力が必要である。

●一方、原因はわかっていないので、モニタリングをして見ていく必要がある。

●豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会の設立について報告を受けた。矢作川を良くしていこうとする方向性は流域圏懇談会と同じであり、情報共有しながら検討を進めていくこととした。

1．久澄橋下流の瀬について

鷲見先生より、久澄橋下流の地形の現状・測量結果について、説明を伺いました。

●澪筋の縦断測量、横断測量の結果から、久澄橋下流は、瀬淵の変化が水没している状況であるが、交互砂州のような地形の凹凸が見られる。

●調査した区間の水位は、ほぼフラットで 30.2 程度。

●最近の国交省が実施した鵜ノ首付近の河道掘削の影響があるとすれば 37.6～37.8ｋ位までで、それより上流には伝播していないと考えられる。

●39.0ｋ付近に淵があり、近年の地形変化がない中で、39.4k（久澄橋付近の瀬があるところ）の河床は低下傾向にあるため、注意する必要がある。

【意見交換】

- 長年、川を見続けてきているが、河床が少しずつ下がっていることは事実である。川は、本来、土砂や砕石を生産するところである。事実として、瀬が消失しており、瀬、淵、砂州のリズムが崩れ、川が不健康な状態になってしまっている。もっと、川を生命体として見る必要があるのではないか。（木戸）
- 様々な土木施設が耐震対策を実施しているが、明治用水もダムも自分たちの構造物の延命化のみを図っているのではないか。（木戸）
- 河床低下しない方法で、通水断面を確保する方法を探すべきではないか。（木戸）
- 先ほど、鷲見先生から説明があったので理解したが、国交省の河道掘削工事の影響で、久澄橋下流の瀬がなくなったと、一般的には考えてしまう。（木戸）
  - ➢ 瀬がなくなってきたのは、最近のことであり、河道の変化を長い目で見るべきではないか。（事務局）

◆お問合せ◆
矢作川流域圏懇談会事務局
〒441-8149　愛知県豊橋市中野町字平西 1-6　国土交通省豊橋河川事務所　事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107／FAX 0532(48)8100
＊矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@iijnet.or.jp）までお送りください。

- 過去に設置された人工構造物の影響は、整備当初は目立つことはないが、近年、加速度的に川が悪くなっている状況が見える。例えば、高橋の工事は、7～8年かかる。その間に瀬淵が壊れたなら、やはり、治療する必要があるのではないか。仁淀川の瀬の回復工事の事例があるように、川を生物として治療してもらわないと川はもたない。（木戸）

- 横断的な掘削は、必ず縦断的な影響があると考えた方が良い。（木戸）
- 瀬をどのように回復させるか、人工的に瀬をつくるのは難しいのではないか。（本守）
  - 漁協では、川の営力でいかに瀬を作れるか検討している。川自身が川の営力で瀬・淵を作ること、今、復元するためにどうすればよいかということを考えてほしい。原因は追及してほしいが、現状を修復する努力もしてほしい。（木戸）
  - 出口をはっきりさせて、どういうモニタリングをやるか決めた方が良い。（鷲見）
- 九州では、瀬を回復させるための事業をやっていると聞く。九州地方整備局から事例を取り寄せてはどうか。（木戸）
  - 分散式落差工については、継続的に調査していきたい。（事務局）

2．豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会について

矢作川研究所早川所長より、豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会について、説明を伺いました。

●10 月 17 日に検討委員会を立ち上げ、豊田市を流れる矢作川を対象とし、葵大橋～越戸ダムを重点検討区間としている。
●平成 27 年度末を目標に活性化プランを策定していきたい。
●矢作川の現状をまずは知ってもらうために、第 1 回を開催し、現状と課題を整理した。第 2 回検討委員会では、課題の評価を行い、矢作川カルテを作成する予定。27 年度には、あるべき姿を追求し、あるべき姿に向けた対策工の検討を行う予定。

【意見交換】
- 検討委員会と懇談会の両方で情報共有しながら、矢作川をよくしていきたい。（硲）
  - 目標は一緒だと思うので、情報共有しながら、是非一緒に検討できればと考えている。（硲）
  - まちづくりの視点から矢作川を見るという委員会であり、この懇談会とは趣きは異なる。（木戸）
- ヒートアイランドの視点は、これまで懇談会の検討の中では全くなかった。検討委員会の資料は、我々が検討していく上でも、勉強になる資料である。（内田）
- 矢作川の支川も対象にしているか。（本守）
  - 支川の連続性という意味では対象に入っている。（早川）
- 河川だけで洪水を処理するのには限界があり、流域の土地利用をどう制限するか、また、例えば風の流れを考えると、河川沿いには、高い建物を建てないといった方向性が考えられる。（早川）

3．振り返り

よかったと思うこと：久しぶりに議論になってよかった。/漁業の人が来てくれたこと。/矢作川漁協の方が加わったことで、活発な議論が行われていた。/鵜の首橋の掘削が久澄橋の下の瀬の消失とは関係がなかったこと。漁協さんの矢作川の生の声を聞けてさまざまな問題があることがわかったこと。/実際に工事を行っていく人、その場所のデータを集めている人、昔からのその場をよく知っている人の意見が聞けたので、いろいろな方面から 1 つの問題について考えることができたこと。/縦断測量の結果から問題点がより明確になったため、その地点の研究をしっかりと行える。/難しいが、立場の違う人がそれぞれの望むことを聞けてよかった。

よくなかったと思うこと：論点がずれていることが多かった。/結論を先送りにしたこと。/モニタリング調査は、期間が設定してあれば理解いただけたのではないかと思いました。/河床低下が止まらず、具体的な対策が見つからない。/専門の方がそろっているからこそ、それぞれの主張が目立つ話し合いとなってしまったこと。河川は、昔と今では利用のされ方が少しずつ変わってきていると思うので、そのときに合った計画を立てて、その時に一番良い状態をつくれればいいと思いました。昔の状態が今現在に合うとは限らないと思うので、もっと前向きな今後の話をしていくといいと思いました。/最終的にどのような状態で終着し、どのような方法でそれに持っていくのかを考えるべきであった。/議論がかみ合わないところがある。それぞれの立場が、せっかく学生の方の出席もあったので、もっと若い人の意見を引き出す議論があったらよかった。

家下川モデルの取り組み・アイデアなど：分散式落差工

質問など：瀬を復元できても、瀬を維持することができるのか。

今後の川部会 WG の予定

■第 23 回（地先モデル）
日時：平成 26 年 11 月 14 日（金）13:00～18:00
内容：活動団体を訪問　・青木川を守り美しくする会
・梅坪水辺愛護会

■第 24 回（本川・家下川・地先モデル）
日時：平成 26 年 12 月 22 日（月）
内容：各モデルのまとめ